

魚病等実態把握指導*

小 川 健・木 村 創

国の魚病対策事業に基づいて国庫補助を受け、魚病の発生および蔓延を防止し魚病被害を軽減するとともに、食品として安全な養殖魚生産の確保を図ることを目的に、魚類防疫対策事業、水産用医薬品指導事業を実施した。

各事業の概要は以下のとおりである。

1 魚類防疫対策事業

1) 防疫会議等

(1)防疫会議

表1のとおり県内防疫会議を開催し、医薬品の適正使用および漁網防汚剤の使用規制について討議した。

表1 防疫会議開催状況

年 月 日	開催場所	主な構成員	主 な 議 題
'87. 1. 23	串 本 町	水産課 水産増殖試験場 水産業改良普及員 かん水養魚協会 各地域防疫検討会代表	医薬品の適正使用および漁網防汚剤の使用規制について

(2)防疫検討会

検討会は表2のとおり開催し、昭和60年度の県内魚病発生状況およびブリ・マダイの投薬技術ならびに養殖マダイの減耗対策について検討した。

表2 防疫検査会実施状況

対象海域	年 月 日	開催場所	主な構成員	主 な 議 題
北部海域	'86. 7. 9	由 良 町	水産課 水産増殖試験場	昭和60年度県内魚病発生状況およびブリ・マダイの投薬技術について
中部 "	5. 9	白 浜 町	水産業改良普及員 関係漁協	"
南部 "	'86. 7. 25	串 本 町	養殖魚業者	昭和60年度県内魚病発生状況および養殖マダイの減耗対策について
東部 "	8. 18	那智勝浦町		"

* 魚病等実態把握指導費による。

2) 防疫対策定期パトロール

魚病の適切な予防治療対策の指導および漁場の防疫監視のため、毎月1～2回各養殖地域のパトロールを実施した。

3) 魚病発生時の緊急対策

1986年10月24日、北部海域で養殖ブリ1年魚にミコバクテリア症が発生したので、完全に治癒するまで移動・出荷を行わないよう指導した。

4) 魚病発生防止対策

(1) 養殖場の定期観測

毎月1回各海域の養殖漁場1～2ヶ所で、水温、DO、塩分量、透明度を測定した。

(2) 魚病情報の収集・伝達

モジャコの腹水症、ブリ越年魚の類結節症およびブリのミコバクテリア症について、県内および他県の発生状況等を、県内養殖業者、関係県水試、南西海区水産研究所の間で情報交換した。

5) 種苗の魚病検査

養殖用種苗を対象にブリ12件、マダイ3件の魚病検査を行った。ブリでは8件がピブリオ病で、同じく8件が類結節症、1件が連鎖球菌症で、マダイではピブリオ病が2件、滑走細菌感染症が2件、類結節症が1件であった（いずれも合併症のために件数増加）。

6) 魚病講習会

'86年11月19日、串本町において、宮崎大学農学部北尾忠利教授による魚病講習会を開催した。演題は「海産養殖魚類の病害対策について—マダイを中心として—」で、養殖漁業者、漁協職員等40名が受講した。

2 魚病関連機械器具等整備事業

該等なし

3 水産用医薬品指導事業

1) 医薬品適正使用対策

水産課にて実施。

2) 医薬品残留検査

出荷のため水揚げされる養殖ブリを対象に、背部筋肉中の医薬品残留検査を行った。結果は表3に示すとおり、医薬品の残留は認められなかった。

医薬品の残留分析は、財団法人日本冷凍食品検査協会に委託し、同神戸事業所で分析を実施した。

表3 ブリ筋肉中の医薬品残留検査結果

対象魚種	対象海域	対象医薬品等の名称 (成分名)	検体採取 年 月 日	検体数	分析結果
ブリ1年魚	北部海域	エンボン酸スピラマイシン	'86. 12. 26	9	全て検出せず
〃	中部 〃	オキシリン酸	'86. 12. 24	8	〃
〃	東部 〃	塩酸オキシテトラサイクリン	'86. 12. 25	8	〃